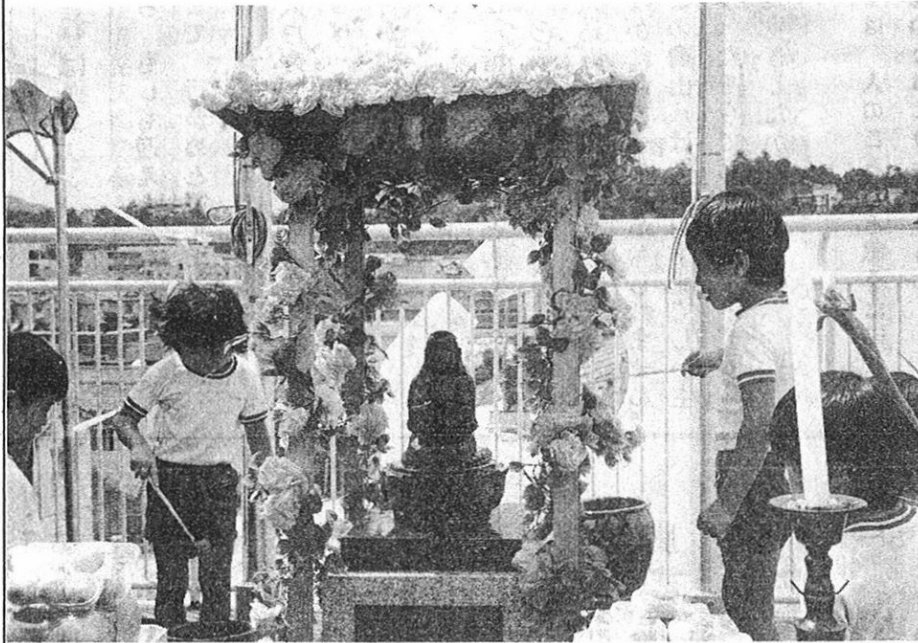


# 観 音 寺

平成3年1月

第14号  
年2回発行  
発集発行

広島県安芸郡府中町  
茂陰2丁目2-8-10  
真言宗 正観寺



金剛保育所 あおば祭り



人がこの世で苦しむのは  
名誉や利益に  
こだわり過ぎるからである

宗 秘 論

気は長く 心は丸く 腹たてず

おのれ小さく 人は大きく

## 気心盡己人

昔から「短気は損気」と申しまして、この短気が自分も他人も傷ついて、オールマイナスであることはよくお互いわかっているのに直せないものです。

私たちがもし一分間立腹したとすると、それが身体に及ぼす影響、つまりマイナス面は、炎天下で激しい肉体労働を一時間したと同じ位だそうです。

そうしますと、五分間立腹してカッカしていますと、五時間の肉体労働に匹敵する訳ですから恐いものです。お互いに短気を慎しみブレーキをかけた方がいいですね…。

## 年とれば

○冥土から もしも迎えきたならば  
八十八まで 行かぬと答えよ  
○八十八を 越して迎えがきたならば  
九十九(白寿)まで 留守と答えよ  
○留守ならば 帰りを待つといたらば  
いっそ行かぬと言いつつ切つてやれ



これは江戸時代の狂歌師として有名な、  
太田蜀山八の威勢のいい歌ですが、これく  
らいの意気込みと気力が充実してませんと  
長生きはなかなかできないかもしれませ  
でも、この蜀山八は七十四才までしか生  
きられなかったそうでしたが……。  
やはり長生きしたかったよう

○今までは 人のことだと思つたに  
俺が死ぬとはこりゃたまらん

という狂歌を最後まで残しています。  
思いますのに、年老いても、身の回りを  
いつもきれいにして、老人くさくならず、

できるだけ無理をしない程度に身体を動か  
すことに心掛け、常に朗らかな気持と明る  
い笑顔を忘れず、意見は言うが争わないで、  
出しゃばりもしないが卑下もしない。くよ  
くよしたり、不平や愚痴はいわれないで、過  
去は語っても自慢話はあまりしない、でき  
るだけ大勢と交わって孤独にならない、欲  
はあるが欲ばりはしない、自分のことは自  
分で処理して、皆んなに迷惑をかけない、  
そして生き甲斐になるような趣味に打ち込  
んでみるのもいいですね。

## 脚 下 照 顧



弾寺の玄関に入ると、よく板や紙に墨書  
された四文字が目に入ります。

「脚下」とは足もと、「照顧」とはふり返  
ってしっかり見ることの意です。ですから  
簡単にいえば「足もとをしっかりみなさい」  
ということになるでしょう。

玄関にこの言葉が多く見うけられるのは、  
まず具体的には「足もと」である履き物に

対する注意を喚起しているのです。履き物  
が雑然とぬぎ捨てて平気であるようでは、  
何をやってもダメですよ、ということ、  
その意味で履き物は「足もと」の代表です  
から、「一事が万事」という言葉がありま  
すように、人間としての行動がより端的に  
表われ出ますのが履き物の脱ぎ方だそう  
です。

しかし「足もと」とは何も履き物に止ま  
らないのです。それはそのまま自分自身へ  
の目の向け直しを警告しているのです。

とかく私達は自分のことを棚にあげて、  
他人のことばかりに気をとられたり、遙か  
かなたの理想を追い求めて、肝腎な自分  
身がないがしろにしている例は世間にたく  
さんあります。むしろ人間の目は外に向き  
やすく、上に向きがちにできているとい  
っても過言ではありません。

つまり、その目の向きを全く逆にして、  
自分自身の内側、自分自身の足もとを見据  
え、厳しく自分自身を正していく、そうい  
う生き方こそ人間にとって最も大切なこと  
だということでしょうね。

お大師さまのことば



「もろもろの 妄想無くば

唯心清浄なり」

一切経開題より

いらぬ妄想を捨て離れたところに、さわやかで清らかな心が泉のようにこんこんと湧き出てくるのです。でも私たちは、もはやどうにもならない済んでしまったことにこだわって、何度も何度も思い返しては、くよくよ持ち越し苦労をしていることがありますし、また将来のことをあれやこれやと予期して、ありえもしない心配事にあくせくと苦労をしていることもあります。

いつも過去のことを反省して、将来失敗しないようにするために前もって検討したり、予測をして手落ちのないように備えることは必要なことなのですが、その反面、この記憶装置と予測装置を兼ね備えた素晴らしい新皮質系の脳の働きが、人間を物事にこだわらせ、悩ましていることも事実な

のです。

動物が過去のことについて思い悩み、あるいは将来の行く末を案じ、思いわずらって自殺したということは聞いたことがあります。要するに、例えば、ネコが明日の天気を心配するようなことはありえないということなのです。人間でも、三才ごろまでの赤ちゃんは、生活そのものが生きているあかきであるように様々なことを吸収していきませんが、どちらかといえば受動的ですから気楽な身分ともいえましよう。

しかし、私たちはもはや動物にかえることも、赤ちゃんに帰ることもできません。そうなればこの記憶と推理の脳の機能をどのようにフル回転させて使ったらいいののか？ということが問題になってきます。

脳はただ働きさえすればよいというものではありません。正しく働かさなければ、かえって有害にもなりうるのです。従って、いらぬ有害な脳の働きにストップをかけなければなりません。

これが

「妄想を起こさなければ、心のなかは清

らかで、静かに落ち着いている」の意なのです。

要するに、正しい人生観を見出し、他の妄いを断ち切る強い意志が必要なのかもしれません。さて、皆さんは如何ですか。結構、ささいなことに対しても執着しているのではないでしょうか。

心のもちよう



めまぐるしい社会の中で生活している私たち、ともすれば生活の余裕を失い、ひからびた心になりがちです。自然より遠ざかり、動植物に心をよせることも忘れ、いつのまにか人間としての生き方を見失ってしまふような今日この頃、

「いきとし生けるもの、いのちあるすべてのものに心をよせ、人の心の美しさを感じ、おおらかな心を養う」ことにつとめたものです。

「草木国土、悉皆成仏」

この言葉はものへの心のよせかたを示し

て

「一木一草、一匹の虫、一滴の水などすべてに生命ある、なしにかかわらず、皆、仏さまとして敬うことのできる性質を内に秘めている。ということにめざまさい」と呼びかけています。

私達人間はものごとに慣れますとそれはごくあたりまえのこととなり、驚きも、感激もなく、不感症とでもいいますか、感謝湧れる喜びなどなくなります。

「便利」なことはいいことですが、その反面、ものの尊さを見失なわせます。「消費が美德」であろうはずはありません。

まだ使用出来るものを捨てることに、罪の意識があつてしかるべきなのでしょうが、えてしてそれも薄れがち……。それに飽食時代、食べ物も粗末にしています。

「もし、この紙がなかったら？」

「もし、この水がなかったら？」

この単純な問いかけがものに心をよせる第一歩なのでしょう。そして相手の側に立って紙になりきってみましょう。水になりきってみましょう。きっと忘れかけていた

何かを思い出したり見出し出すことができるかもしれない。

すべてのものは、それぞれの立場で自分の役目を果たし、ルールを守っています。

例えば、山の木々をかたっぱしから切れば災害を及ぼしますし、車でスピードを出しすぎますと事故につながります。要するに自然のバランスを人為的に崩さないようにしなくてはいけないということなのです。

どんなものでも、不用なものはありません。いろんな恵があつて使わさせてもらう人だ、という謙虚な心も必要でしょうね。

平成三年度

正観寺 主な年中行事

一月一日～三日 修正会（祈願講摩供）

二月三日 星祭

三月十日 観音大祭

三月十八日～二十四日

春季彼岸回向

二十七日～三十日

小豆島巡拝

七月二日～三日 石鎚山参拝  
八月十日～十五日 施餓鬼供養

八月二十四日

地藏祭 午前十時より

九月二十一日～二十七日

秋季彼岸回向

十二月三十一日

午後十一時三十分より年越し祭

毎月十八日 観音日

編集後記

皆様の体験談や、人生論を幅広く掲載いたしたいと思しますのでどんどんお寄せ下さい。

